

試験名

参加施設に新たに発生する全AML、高リスクMDS症例を対象とした生存に関する観察研究
(前向きコホートスタディー) : (JALSG-CS-07) **終了**

研究事務局 : 宮崎 泰司 (長崎大学原研内科)

概要・目的

本研究に参加する JALSG 施設において診断された全ての初診急性骨髄性白血病(AML, WHO 分類による定義)と骨髄異形成症候群 RAEB-2 (Refractory anemia with excess of blast) を登録し、

- (1) AML 全体の 5 年生存率ならびに
- (2) 高リスク MDS の 5 年生存率並びに生存に与える移植療法の影響を明らかにする。

対象

参加施設 (別掲) で新たに診断される急性骨髄性白血病 (AML)、高リスク骨髄異形成症候群 (MDS)

収集される情報は以下の検討のために利用されます。

- (1) AML 患者の 5 年生存率
- (2) AML 患者の生存率に対する造血幹細胞移植の影響
- (3) 造血幹細胞移植を受けた AML 患者の生存率に対する移植時期、前処置の影響
- (4) 国内 AML の年齢、性別、病型スペクトラム
- (5) 既知の予後因子による全症例層別化可能性の確認
- (6) RAEB-2 と AML/MDS 患者の 5 年生存率
- (7) RAEB-2 と AML/MDS 患者に対する造血幹細胞移植の実施状況
- (8) 化学療法による寛解持続期間

目標症例数

1500 例